

いっしょにRE・らいふ —つたえる・つながる・つむぐ—



うどん県（香川県）綾川町 所属 綾歌地区在宅医療介護連携支援センター
副センター長 増田 玲子（社会福祉士、認知症地域支援推進員）



aya gawa

綾川町の基礎情報

人口	24,202人	65歳以上人口	8,358人（高齢化率34.5 %）
日常生活圏域数	1圏域	包括数	直営：1箇所

認知症地域支援推進員数：5名（うち行政：4名、その他1名）

地域の特徴：綾川町は、香川県のほぼ中央に位置し、総面積109.75平方キロメートル、人口約25,000人の町です。町の南部には山林が広がり、北部は小山に囲まれた起伏の多い丘陵地で形成されています。町名の由来ともなった清流綾川は、南東部の山中に源を発し、水と緑の豊かな美しい自然が広がっています。



町木：梅
菅原道真公ゆかりの滝宮天満宮の飛び梅



うどん発祥の地



(C)Mapion

本日の内容

- 推進員としての歩み
 - ケアパス作成と医師会との連携
 - 事例対応と育育広場の誕生
 - これからの推進員としての役割
- 在宅医療介護連携支援センター職員の立場となって
- まとめ

推進員としての歩み

包括職員としての私の推進員活動の歩み①

認知症地域支援に関する町の課題

○認知症に関する理解不足

○閉鎖的

○関係ない…という意識

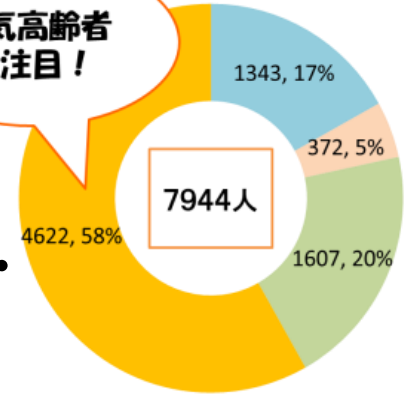
- ・予防には熱心だが、自分と認知症の人とを線引きしてしまう・
- ・介護保険利用すると違う人という見方

○介護保険を利用すると、つながりがきれる

○サービスを利用している、本人がいい姿ではない

認知症に関する研修会、講演会でのアンケートで「ああはなりたくない。認知症は怖い・・・」という声が多く見られた。

元気高齢者に注目！



綾川町高齢者の状況H.27.3.31現在

○制度・事業を進めていく中で住民の関心を高め、関わってほしい
○高齢化というけれど、元気な人もいます。この人たちが理解を高めてくれれば素晴らしい力になる！

綾川町で暮らす様々な人たちを大切に、一人ひとりの意識、力を引き出す、活かす

ぜひ、地域の**住民の力**も活用して、**一緒にまちづくり**を目指そう！

包括職員としての私の推進員活動の歩み②

住民力



- ・ H 1 8 ～介護予防サポーター養成まなびあい講座
- ・ H 1 9 ～介護予防サポーター活動

活動支援



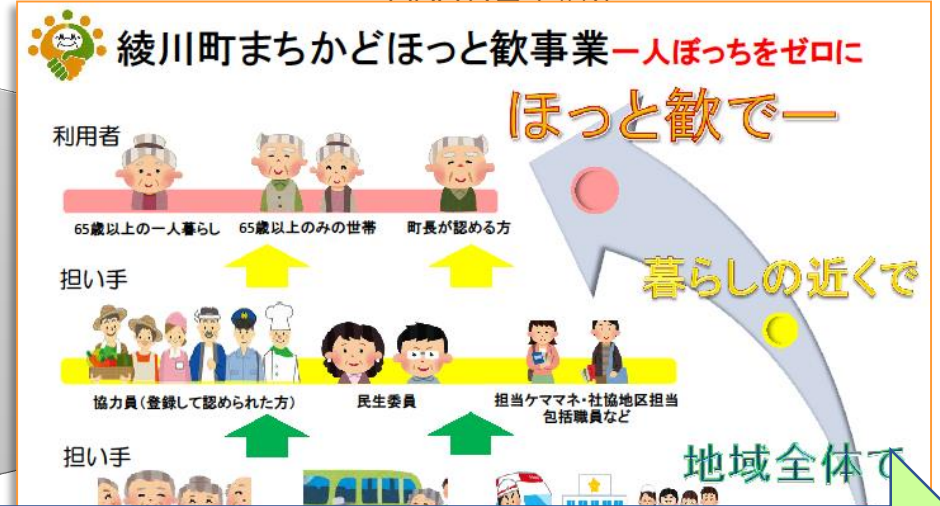
- ・ H 2 4 ～
支援ボランティア
- ・ ポイント制の拡大



体制作り



- ・ H 2 5 ～
どほっと歓事業
- ・ 協力員
- ・ 徘徊高齢者ほっと歓メール配信



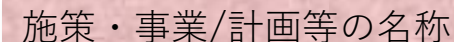
サポーターを核として住民力・地域力の充実に向けた流れ

今まで認知症地域支援推進員として取り組んできたこと

1. 初期把握 認知症の理解、気づきのスコア化→初期把握シートを医師会と作成
2. 初期段階の方の受け皿の拡大
脳の元気教室、サロンの立ち上げサポート、生きがいデイへの参加を後押し、家族の会等の情報提供
本人ミーティング
3. 個別のケースへの丁寧な対応
★本人・家族・ケアマネへの寄り添い、介護保険サービスと地域の連携、地域ケア個別会議の
開催・参加 多職種症例検討会の定期開催(医師会と共同)
4. 認知症サポーター養成講座の開催

ケアパス作成と 医師会との連携

基本理念：安らぎを感じ、いきいきと暮らすまち（綾川町高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画）

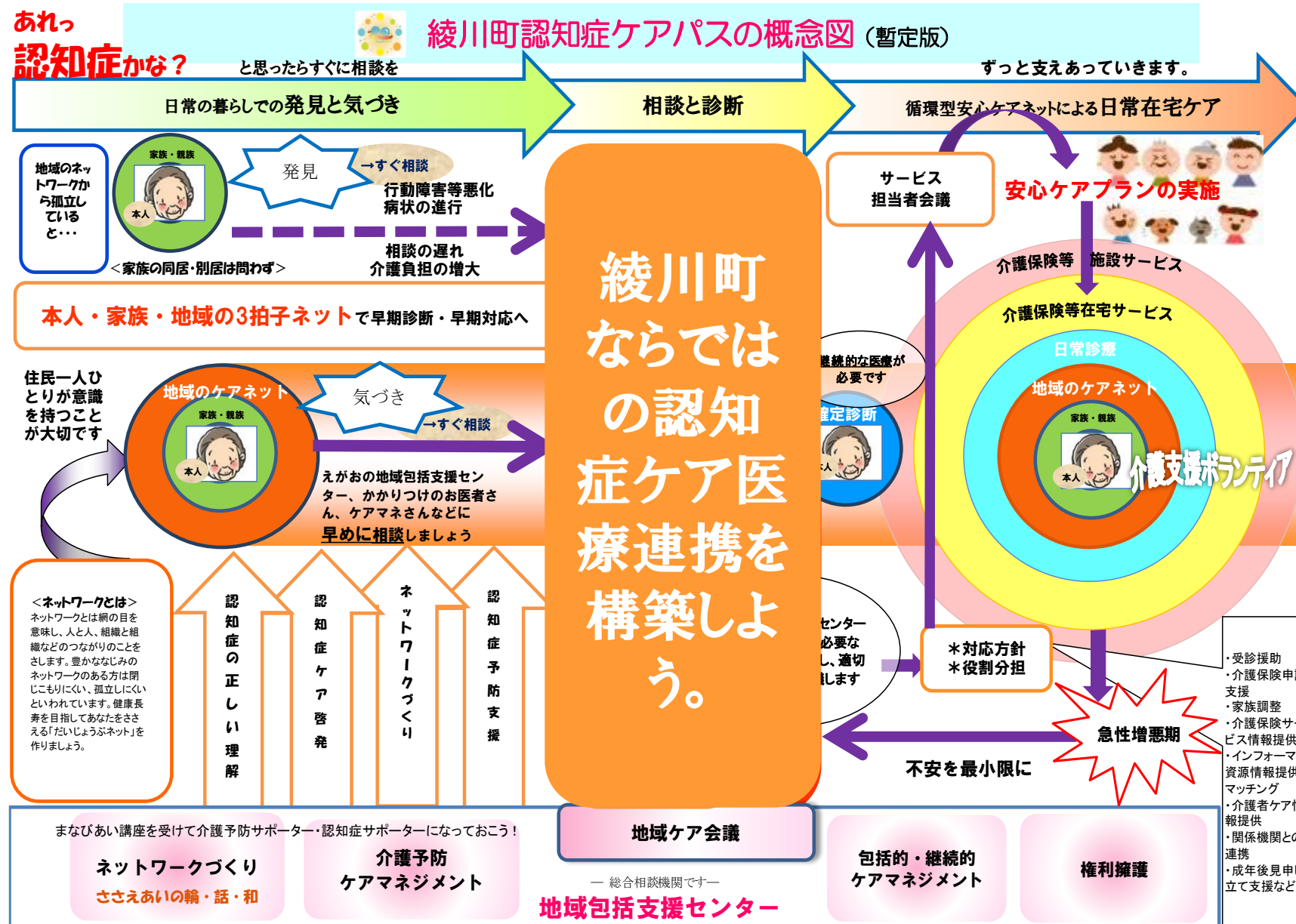


- ①認知症ケアパスの作成・普及
→平成27年9月全戸配布
- ②認知症予防と認知症相談の実施
→平成27年1月開始
- ③認知症初期集中支援チームの設置
→平成29年度設置
- ④認知症地域支援推進員の配置
→4名
- ⑤認知症サポーターの養成
→約1300名（製薬会社、スーパー、中学校など）
（介護予防サポーター：411名活動率約50%）
- ⑥地域での認知症地域支援の推進
→脳の元気教室、介護予防サポーター活動、まちかどほっと歓事業
- ⑦認知症高齢者の認知症ケアの質の向上
→研修会、認知症症例検討会：3ヶ月に1度年4回開催（地区医師会と共同）
- ⑧認知症カフェ事業の実施検討
→いきいきサロン、いきがいデイサービス、本人ミーティングなどへの参加促進

平成26年度から27年度にかけて

- ・ H26. 7 月 綾川町と**認知症ケアパス作成**打ち合わせ開始
- ・ H27. 1 月 認知症ケア**医療連携フロー図**作成・**認知症医療連携シート**(相互版) 作成、運用開始
- ・ H27. 1 月 認知症サポート医による**認知症相談**開始
月1回第2水曜日 (祭日等と重なった場合は第3水曜日)
- ・ H27. 1 月 認知症施策説明会、認知症講演会開催
- ・ H27. 4 月 **認知症ケアパス**完成、全戸配布
- ・ H27. 8 月～医師会の呼びかけで
認知症対策委員会設置

綾川町認知症ケアパス概念図原案



H27年1月医療連携シート運用開始

綾川町 医療連携シート
かかりつけ医→サポート医
診療情報提供書（専門医療機関への紹介用） 平成 年 月 日

医療法人社団有隣会 清瀬クリニック
浜田 健水 先生 御机下

医療機関名
所在地
電話番号
医師名

生年月日
生活環境 ☐ 在宅 ☐ 同居家族 ☐ 施設

傷病名
勘概及び紹介目的
認知機能障害の評価・診断等（具体的に）
治療 ☐ その他 ☐

現病歴 ☐ 高血圧 ☐ 糖尿病 ☐ 高コレステロール血症

心身の状態に関する意見
①日常生活の自立度について
☐ 自立 ☐ I ☐ IIa ☐ IIb ☐ IIIa ☐ IIIb ☐ IV ☐ M

②認知症の中核症状（認知症以外の疾患で同様の症状が認められる場合を含む）
・短期記憶 ☐ 問題なし ☐ 問題あり
・日常の意思決定を行うための認知能力 ☐ 自立 ☐ いくらか困難 ☐ 見守りが必要 ☐ 判断できない
・自分の意思の伝達能力 ☐ 伝えられる ☐ いくらか困難 ☐ 具体的な要求に現れる ☐ 伝えられない

③周辺症状 ☐ 無 ☐ 有
☐ 幻視・幻聴 ☐ 妄想 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行
☐ 介護者への抵抗 ☐ 徘徊 ☐ 火の始末 ☐ 不潔行為 ☐ 異食行動
☐ 性的問題行動 ☐ その他 ☐

④その他の精神・神経症状
〔症状名〕

⑤専門医受診の有無
☐ 有 ☐ 無

現在の処方

生活上の困難・家族が対応に困ること

その他

※必要に応じて画像等を添付して下さい。

綾川町 医療連携シート
サポート医→かかりつけ医
診療情報提供書（専門医療機関からの紹介用） 平成 年 月 日

医療機関名 医療法人社団有隣会 清瀬クリニック
所在地 綾歌郡綾川町滝宮555番地1
電話番号 087 - 876 - 0056
医師名 浜田 健水 先生 御机下

基本属性
生年月日
生活環境 ☐ 在宅 ☐ 同居家族 ☐ 施設

傷病名
☐ アルツハイマー型 ☐ 脳血管型 ☐ 前頭側頭型 ☐ レビー小体型 ☐ その他

程度
☐ 認知障害なし ☐ MCI ☐ 軽度 ☐ 中等度 ☐ 重度（備考：）

症状及び治療経過

〔実施日〕 年 月 日
〔実施日〕 年 月 日
〔実施日〕 年 月 日
〔実施日〕 年 月 日

かかりつけ医→サポート医 ↔ サポート医→かかりつけ医

綾川町認知症医療連携シート

綾歌地区医師会 綾川町 共同作成
2014年 10月版

早期受診・早期診断に期待！

H27年1月認知症施策説明会開催



みんなで力を合わせて
地域包括ケアを。この地
域ならではの認知症ケア
パスを作しましょう。



認知症サポート医
浜田先生



綾歌地区医師会
溝渕会長



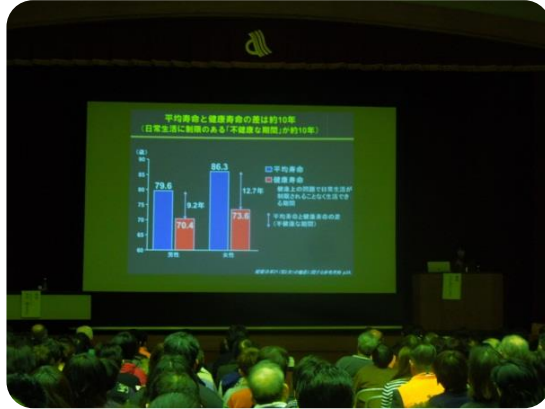
早期診断・
早期対応の
体制が前進
しました。



医師会、事業所、民生委員、介護予防サポーター、社協、行政が一堂に

H27年1月30日認知症講演会開催

大分大学 吉岩あおい先生をお迎えして



約260名が参加

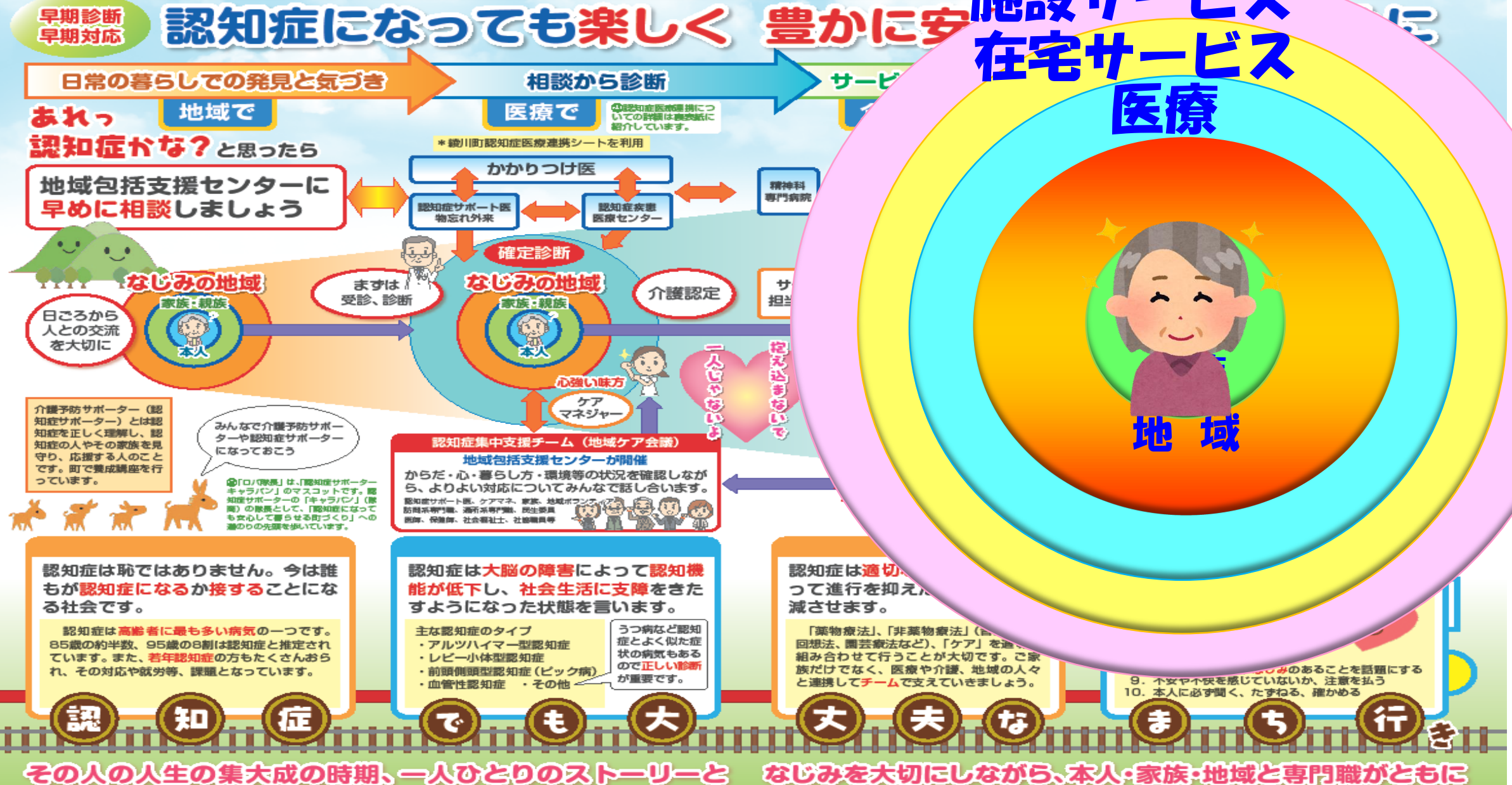
地域全体で見守っていく仕組みが
できたらいいなあという声も



専門職、地域住民と一緒に

綾川町認知症ケアパス概念図

施設サービス
在宅サービス
医療



事例対応と育育広場の誕生

事例対応と育育広場の誕生

- ★ 1.一人暮らしで若年性認知症の女性とチームとのかかわり
- ★ 2.一人暮らしで孤立していた認知症の人
- ★ 5.自らカミングアウトしている

認知症の人と本人ミーティングから育育広場へ

★ 1 一人暮らし認知症女性の事例①

Mさん 一人暮らし 60才代 女性 若年性アルツハイマー 要介護2 元特養職員

「息子がお金を盗った！！」「死ねというのか！！」（本人）

- ・ 息子さん（県外）、兄（近所）、友人（サポーター）に朝夕問わず何十回と電話攻撃。駐在所、役場に「お金を盗られた。死にます。」という内容の頻回な電話（遺書も書いている。）
- ・ 兄、息子が心身ともに疲れ、倒れそうになる。本人を入院させて欲しい。
- ・ 「出口の見えない入院はどうなのかな？もう一度地域で話し合ってください。」（疾患センター医師）
- ・ ★チームM誕生！：第1回地域ケア個別会議開催：息子さん、兄、医療疾患センターDr.診療所Dr.民生委員
駐在所、サポーター、役場、ケアマネ、包括参加。
- ・ ヘルパー、訪問診療、サポーターや民生委員による声かけ、見守り
- ・ 月1回程度会議、センター方式記入など。週間プランをみんなで共有。

推進員として、自宅で暮らしはもう無理だ、という周囲の不安や揺らぎに
寄り添いながら、継続的連携調整を図ることにより

- ・ 「早く施設に放り込んで！」と言っていた近所の人が、「どのように声かけすればいいですか？」と包括に相談に来るようになった。
- ・ ケアプランを共有しているので、ヘルパー訪問の時間帯に本人が友人宅を訪れていたとしても、「今、うちに来ているからヘルパーさんが心配しているかもしれないから伝えておいて」と包括に電話をしてくるようになった。
- ・ 「本人から『お金がないので、今、死にます。』という電話があったけど、話を聞いて、包括の人に言うておきます。という、『ありがとうございます。よろしくお願いします』といって穏やかに電話を切った。」と包括に伝えてくる若い役場職員・・・チームMで支えよう！！



地域ケア個別会議

★ 1

一人暮らし認知症女性の事例②

ケアマネジャー

どうやってデイサービスの利用につなげようか？事業所はどこがいいだろうか？

友人

お茶に行こうと誘い出します。Mさんはお花が好きなので、フラワーアレンジメントをする日に。

もし、お迎えの車に乗らなければ、私が連れて行きます。

本人

犬がいるから出かけられない！

お利口だから、テレビを見て待っていますよ。

介護職員



支えあいフォーラムでチームMの取り組みを発表。息子さんも県外から駆けつけ、Mさんへの思いと今の心境を語ってくれた。

ヘルパーさん

サポート医

かかりつけ医

包括

介護事業所

友人(サポーター)

民生委員

息子さん

ケアマネジャー

フォーラム参加者の声：「すごい」の一言です。認知症の人がひとりで生活するなんて信じられない。私には衝撃的でした。たくさんの人の協力があるとこんな事が出来てしまうんですね？これからも一人でも多くの認知症や家族の人にたくさんの人が関わってほしいと思います。私もその一人でありたいものです。

たくさんの皆さんが母のために集まって話し合ってくれたことがとてもうれしかった。

介入できる糸口をみんな考えました。

孤立した一人暮らし認知症の男性の事例

- ・ 民生委員から孤立している年寄りがいるという情報。
- ・ 銀行から何度も通帳を再発行する人がいる。残高が減っていて光熱費の引き落としができなくなる。

受診・認定申請・役場職員との同行

最初は一人から

- ・ 認知症一人暮らし男性、80代前半、介護保険未申請。身寄りほぼなし。運転をしている。
- ・ 「僕はがんばっとるやろ。」 「このままではいかん。なんとかせないかん。」
- ・ 「今の暮らしは刑罰のようや。」

何度も何度も訪問しながら、職業のこと、兄弟のこと親の子と出身地のこと。「妹となあ、一番仲が良かったんや、一度島に遊びに来てその時に寝所のブローチを買うたんや。」

権利擁護事業・初期集中支援

- ・ クーラー、電話、扇風機「壊れている。」
- ・ 免許証は？「それは難しい問題や。でも掟は破るといかん。」

私のこと信用できますか？「信用する。」〇〇さんにとって必要な手続きをしていくのでよろしくお願いします。

成年後見制度町長申し立て・介護保険サービス導入

- ・ 冷蔵庫とポットは使える。
- ・ 下着類何枚も重ね着→**ミルフィーユ**さん
- ・ 病院の食堂で「こんなちゃんとした飯は久しぶりや。」

何度行っても、自己紹介は初めてのように、「私は増田と申します。〇〇さんのこれからのことを一緒に考えていく係です。」いつも新鮮な人

今は何十人の人がその人を知り、暮らしを知っている。

★ 3 Sさんとの出会いから本人ミーティング、 育育広場の誕生へ！

- 68歳、男性、夫婦二人暮らし。アルツハイマー型認知症
- 診断を受けて3年間、ご夫妻で病気に向き合ってきた。当初から認知症のことは夫婦ともに周りの人に隠すことなく伝えてきているが、だんだん本人の行き場が狭まり、このままではいけないと思い、妻が近所のMさんに「どこかええ病院あるかな？」と相談。

＜そのときのSさんの暮らしの様子＞

内装関係の自営業を営んでいたが、続けていけなくなってきた。

外出の機会が減り、妻と一緒に通院・買い物に出かけるくらい。

愛犬との散歩が唯一の楽しみ

妻に仕事仲間との過去のトラブルを繰り返し妄想するなど



- 近所のMさんに「包括に行きまい。」といわれて来た。
- 包括に来て、「目の前が開けた気がした」と。
- これからはどんどん出かけていきます。→出会いの持つ力を実感。もっと出会いを。

出会いから出会いへ

- 10月19日：家族の会の研修会に参加
S夫妻、Mさん、包括
- 11月22日：高松市で開かれた
地域フォーラムに参加
- 11月29日：東京のワークショップに参加



そこに来ていた富士宮市の佐野光孝さんご夫妻との出会い、
いつでも夢をというバトンを
もらいました。

ワークショップで 丹野智文さんに出会った！！



ヒントが
いっぱい

わくわくミーティング本人の声①

(認知症は)最近友達みたいに、くるぞ、くるぞと、それがわかるようになった。そしたら全然違ってきましたね。最初は不安で、頭がおかしになりそうだった、まあちっとはおかしになっているだけ。慣れやと思うんですよ。思い切ってなれたら、自分はお前は認知症だと。慣れたらだいぶ違ってくるんですね。

(物忘れ自体は)そんなに困ったことはないんですが、だんだん自分でわかってきた。何がいかんてストレスがいかん。私の場合。

(認知症になって)今までもっともっと不安だったんですよ、仕事もしよるし、仕事の付き合いでも、どここの社長とか、これがまた意地が悪い。そういう人は、するどいからわかるじゃないですか。それも最初堪えた。開き直るしかない、

(集まることについて)今日みたいに集まってくれたら安心する。やっぱりふつうにね、気を使わなくていい。他の人やったら、気の鋭い人はすぐ察する。その人たちが、俺は隠さんけど、大したことではないんやけどね。一言言われたら気になることもある。ちょっと離れたところでね、おかしいんちゃうと言われた。そういうのは聞こえる。それは堪える

(集まることについて)みんなと一緒にいるのは楽しい。

わくわくミーティング本人の声②

（この会がどんな会になればいい？）今日みたいだったらええんちゃう。みんなで話できた。あまり取り繕わなくていいからね。

ケアマネさん：また介護保険のサービスとは違って気兼ねなくお話できるのは大切だなと思いますし、こういう機会が続けて持てるといいなあと思いました

（免許証について）

- ・去年3月に免許証返した。不便な。事故したら皆に迷惑かけるから。
- ・私はあと1ヶ月で切れる。
- ・足だけが頼りになってきたから、足を鍛えておかないといけないと思う。歩くようにしている。日記を書いて来年の参考にとと思うので。晩に日記書いていたら朝していた事を忘れていたので思い出しながら書いている。

物忘れを治す薬がほしい。楽しみはカラオケ。週1回行っている。昭和のカラオケクラブは40年前に私が作ったんです。

（これからもこんな会で集まりたいですか？）

- ・ええやろ、やっぱり
- ・僕はかまわんよ
- ・うれしかった。みんな会うことないのに。来て良かった。

まだまだ まだまだ
ご紹介できない声たちが
たくさん。

本人ミーティングを通して見えてきたこと

- それぞれの**生きる姿**との**出会い**そのものがお互いの力になる。
- 話をする**場**があって初めて理解が深まる。気持ちがすっきりする。みんなに早く出てきて欲しい。
- **まずはやってみると次が見える。**
- すぐそばの人がパートナーになれる地域はやさしい。
- 住民力の育成はとても有効であると実感できた。なじみの介護予防サポーターが自然にパートナーになれた。
- 豊かな生活実態こそが求められる。できることを探しながら、つながっていく。
- ネットワークは、**本人、家族、ご近所さん、友人などがそれぞれ主体**となり、一緒に手をつなぎあう形になってこそ、出来上がっていくものではないだろうか。

やってよかった 本人ミーティング

出会おう・語ろう・つながろう

詳しくは本人ミーティング
開催ガイドブックで



育育広場のとりくみから

認知症の人にもそうでない人にも
誰にもやさしい地域づくり

ー Sさんの暮らす南かざし団地での取り組みー



2017/08/11

本人・家族
地域住民

育児広場ができるまで

地域包括
支援センター

生きがいを持てる場を作りたい

子育て支援施設の
空きスペース
の利用をして欲しい

子育て支援施設の
園庭にも雑草
が生え、荒れて
いる



手作りおも
ちゃや特技を
活かしたペン
キ塗りをして
欲しい

ここなら誰も
が気楽に通っ
てこられる場
になる



子育て支援課



健康福祉課

★子育て支援施設さらに育育広場とは

これは南かざし団地をモデルとして認知症になっても住み慣れた地域で楽しくいきがいを持ちながら、安心して暮らし続けるための場作りと世代間交流のあり方を模索することを目的としたもので、認知症の人でも認知症でない人も老若男女を問わず参加できる。なお、65歳以上の方はこの活動に対して介護支援ボランティア制度〔ポイント制〕が適応される。

Sさんの暮らしの変化

相談前の生活

月	火	水	木	金	土	日
妻仕事	通院			妻仕事	妻仕事	妻仕事
愛犬の散歩	愛犬の散歩	愛犬の散歩	愛犬の散歩	愛犬の散歩	愛犬の散歩	愛犬の散歩
夜中に妻を起こして仕事上のトラブルのことなどを言い募る。						



今の生活

月	火	水	木	金	土	日
ラジオ体操 100歳体 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操 ラジオ体操						
妻仕事	育育広場	通院	脳元気	テイクア		妻仕事
			卓球	テイクア		
愛犬との散歩	愛犬との散歩	愛犬との散歩	愛犬との散歩	愛犬との散歩	愛犬との散歩	愛犬との散歩
おもちゃなど木材の材料カットは予めSさん宅の工房で男性陣が集まり行う。時々男の料理教室など行事に参加。						

本人：ま、みんな素人。それを見守っている。ま、楽しいなあ

妻、本人の自信につながった。

男性が参加しやすい役に立てる場が出来て良かった。

写真集までできました。 周りの人々の希望と支えに



推進員として活動上の工夫、心がけてきたこと

揺らぎを支える

- 本人・家族・サポーター・民生委員・医師・ケアマネ・ヘルパー・デイサービス職員・役場職員などの話(不安や出来事、心情)を**聴くことを心がけ、否定せず**にまず受け止めた。
- その中でちょっとしたこと、良かったこと、うまくいったことを拾い、そのことをチームで共有できるように心がけた。そのために**情報を推進員に集中**するようにお願いした。(ちょっとしたことや気になったこと、何でもいいのでいうてくださいね。)
- そしてケアマネには真っ先に伝え、常に一緒に相談してきた。
- 「これはすごい！」と思われる**極上の対応はみんなで共有**し、対応力向上のヒントとして活かす。
- ヘルパーさん、民生委員さん、サポーターさん(友人)にお願いして「**センター方式D-4シート**」に訪問時の様子を記録してもらった。そうすると、本人の状態の悪いときだけに注目する事が減り、良いときの言葉や表情、出来事など、いきいきとした本人の実態が見えてきた。**記録する(書く)ことにより言語化**でき、より本人の視点を大切にする関わりができるようになってきた。
- 意識的に「**チーム**」という言葉を使い、みんなでMさんに関わっているという意識づけをした。

これからの私の 推進員としての役割

♥ 安心へのゴーサインゴーサイン(876-5353)
綾歌地区在宅医療介護連携支援センター
(綾歌地区医師会館内)



あきらめた事例はありませんか？

在宅療養支援

もう限界だ！

認知症と診断されてショック

自宅での看取りは無理

退院時支援

もう家には帰れないわ

● あんしん

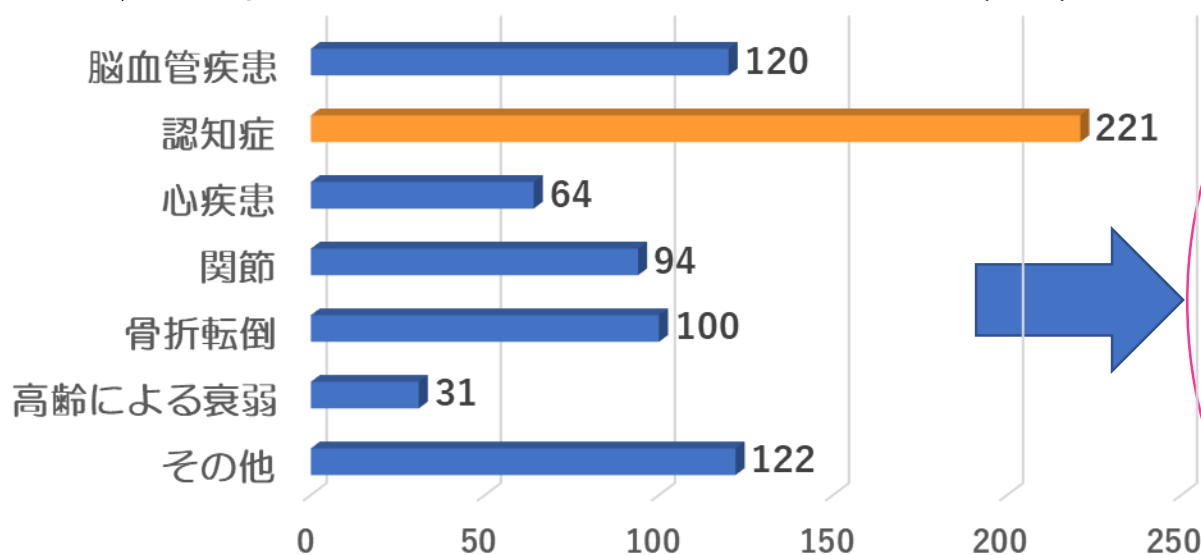
● あかい

● あきらめ

私たちがいるよ

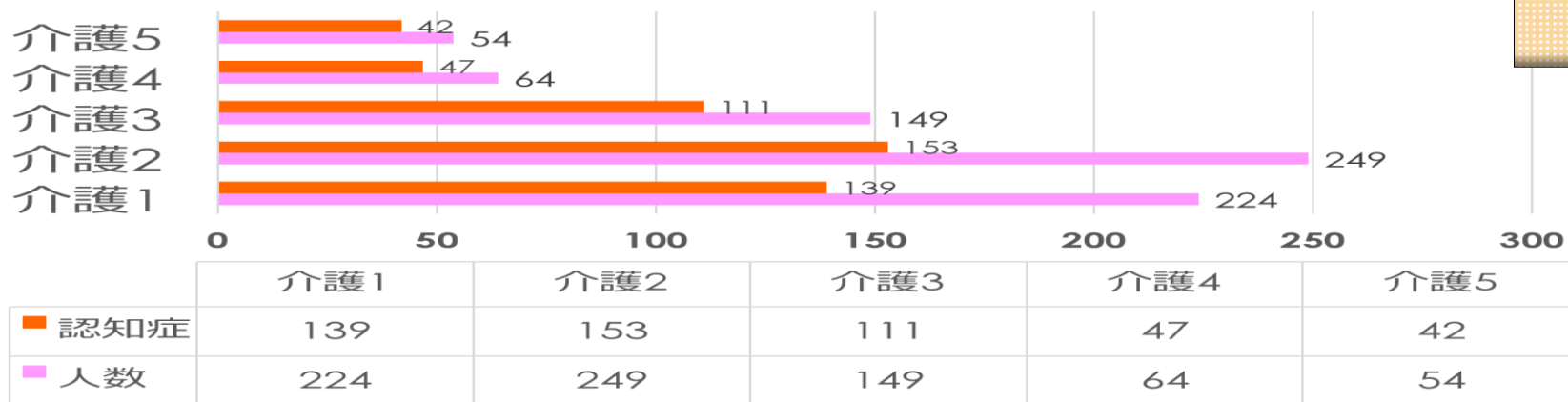
地区内居宅介護支援事業所の利用者に関する調査から（H.30.8月実施）

◆介護認定を受けた原因疾患（人） n=752



認知症のことを抜きにして
在宅ケアの推進も医療介護
の連携も語れない

◆介護度別人数と認知症（人） n=740



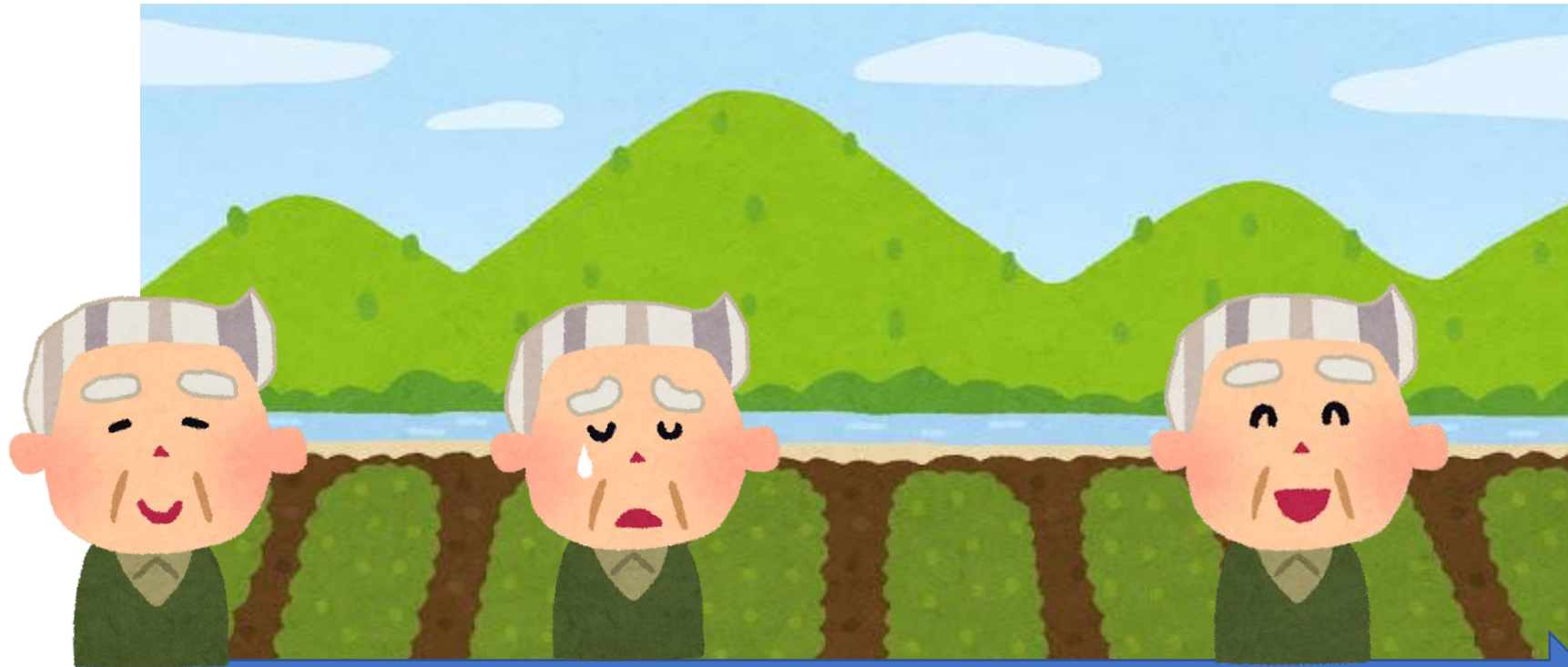
医療・介護＋地域↓生活

課題

- 本人・家族のカミングアウトへの抵抗感
- かかりつけ医の心理→患者との関係
- 医師間の連携の在り方→患者が主体となっているのか
- 早期対応の遅れ→初期集中支援が中重度者が主
- 役割・生きがいづくりの場の効果・評価→育育広場の拡充・好事例の共有化
- 経済的な課題と就労継続・就労支援のあり方の模索
- 早期受診のためのかかりつけ医の意識啓発→セルフチェックシート・連携シートの活用
- 本人・家族・地域住民の意識啓発→担い手の養成・本人ミーティング・ネットワーキング
- 専門職（ケアマネ等）がどこまで本人視点に立てているのかの検証

まとめ

推進員はご本人と長くお付き合い①



人生の中で様々な出来事やストーリー、出会いがある

ケアマネさん

認知症地域支援推進員

初期集中

推進員はご本人と長くお付き合い②

★事例



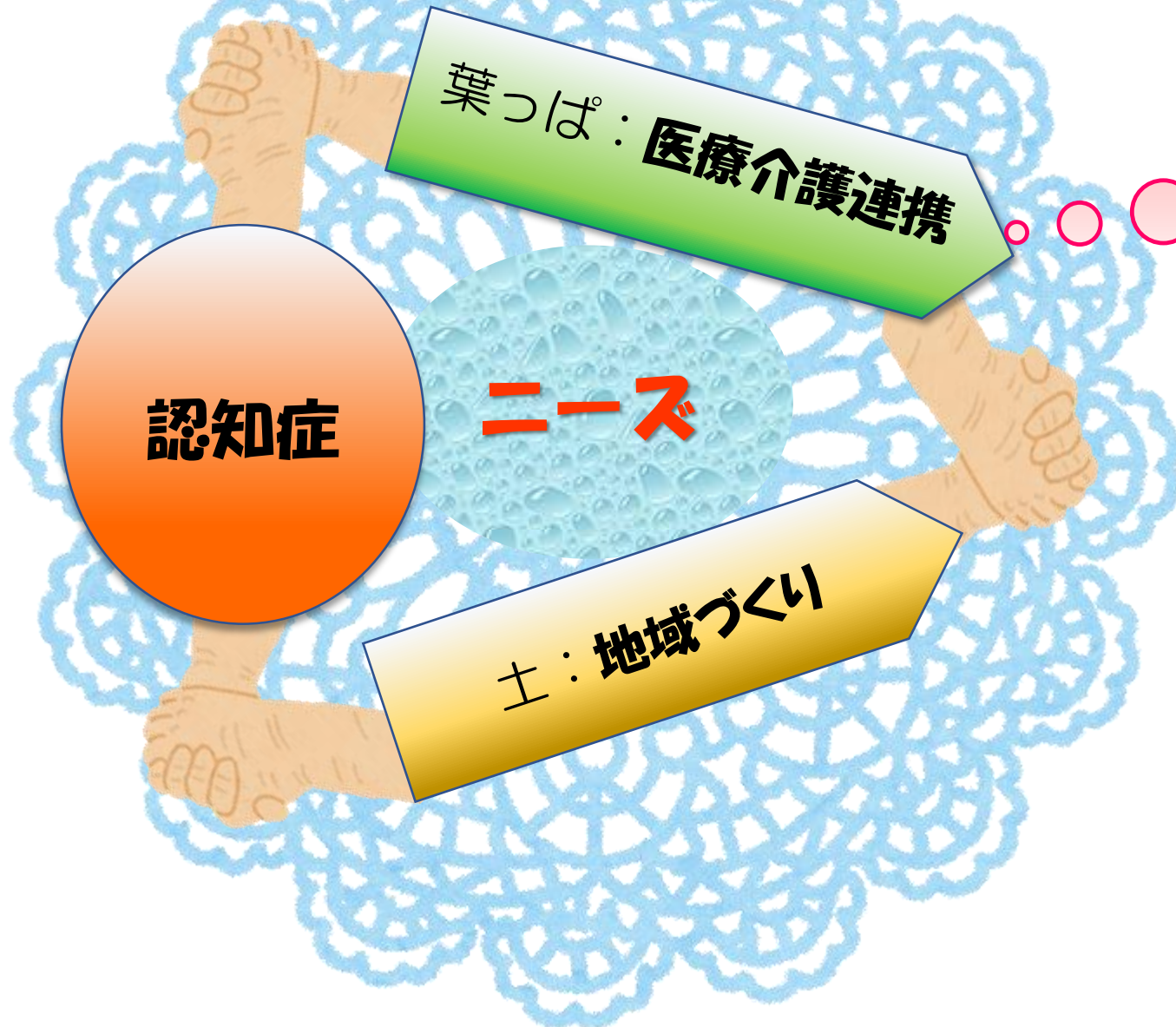
★事例



★事例



その人ならではの地域包括ケアシステムと事業連動



レースを編むように・・・
その人ならではの
生きたネットワークを



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等
事業 <地域包括ケア研究会>地域包括ケアシステムと地域マネジメント（地域包括
ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業）」2016年

本人視点を大切に

- **本人視点を大切に本人の声をさまざまな形で地域に伝える**ことにより、早期診断・早期前向きという考え方が行き渡ることを目指す。
- いわゆる空白の時間をできるだけ短くできるように**さまざまな機会、場作りを模索**する。
- 情報共有・地域と多職種の連携で認知症の人のその人らしい**生活を創って**いけるよう支援する。
- 思い続けることと、**できることから少しずつ**。まず、少しやってみると次々と何をすればいいのか見えてくる。必ず、本人に聞いてみる。
- 周りの人に**声かけ、誘い合うこと**を心がける。そうするとどんどん人の輪が広がる。声をかけられない人の立場に立つ。自分から何かに参加するのは難しいという人の思いを知る。
- 担当分野にとらわれ、**専門職同士が知らない間に切れ目を作らない**よう、何のためかを忘れずに全体像をお互いに感じながら業務に取り組もう。

♥ 推進員さんへのメッセージ：一つ一つの事例を丁寧に。そこから次が見えてきます。
支えあい伝えあいのネットワークをみんなと一緒に作っていきましょう。

